



**2022年3月期**

**第2四半期決算説明資料**

2021年11月8日

**TOWA株式会社**

## 主な説明内容

1. 2022年3月期 上期実績
2. 2022年3月期 通期予想
3. TOPICS

## 主な説明内容

- 1. 2022年3月期 上期実績**
2. 2022年3月期 通期予想
3. TOPICS

## 2022年3月期 上期サマリー

過去最高

売上高  
**243.3**億円

営業利益  
**56.7**億円

経常利益  
**57.0**億円

当期純利益  
**41.4**億円

受注高  
**389.2**億円

▶ **収益性が大幅に改善し、営業利益は前期比5.2倍の56.7億円となる。**

売上の増加や工場稼働率の改善によるコスト削減効果などにより、半導体モールドディング装置やシングュレーション装置の利益率が改善。

▶ **上期の受注高は過去最高の389.2億円。四半期受注高も過去最高を更新。**

第2四半期の受注高は205.5億円となり、過去最高を記録した第1四半期の183.6億円を上回る。

こちらのスライドは、2022年3月期上期決算のサマリーです。

売上の増加や工場稼働率の改善によるコスト削減効果により、半導体モールドディング装置やシングュレーション装置の利益率が改善し、営業利益は前期比5.2倍の56.7億円と大幅に改善いたしました。

各段階利益も経常利益が前期比4.6倍の57.0億円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比4.7倍の41.4億円と大幅に改善しております。

スマートフォンなどの高速通信規格「5G」関連製品や、PC、車載、家電など幅広い製品分野で、半導体の旺盛な需要が続いており、世界的な半導体不足の解消と今後の需要拡大を見据えた設備投資が活発で上期の受注高は389.2億円、第2四半期の受注高205.5億円と上期受注高・四半期受注高ともに過去最高を更新いたしました。

## 2022年3月期 上期連結業績結果（前年比）

（単位：億円）

	2021/3期 上期実績	2022/3期 上期実績	増減額	前年比	2022/3期 上期業績予想 (ご参考)	予想比
売上高	128.7	243.3	+ 114.6	+ 89.1%	240.0	+ 1.4%
営業利益 (営業利益率)	10.9 (8.5%)	56.7 (23.3%)	+ 45.8	5.2倍	53.0 (22.1%)	+ 7.1%
経常利益	12.3	57.0	+ 44.7	4.6倍	53.0	+ 7.7%
当期純利益	8.9	41.4	+ 32.5	4.7倍	37.0	+ 12.0%

※当期純利益 = 親会社株主に帰属する当期純利益

こちらは、上期の業績結果です。

売上高は、世界的な半導体不足解消や中国半導体内製化に向けた力強い需要を背景に、前年比で大幅に増加しました。

利益についても、売上の増加や工場稼働率の改善によるコスト削減効果により、半導体モールディング装置やシングュレーション装置の利益率が改善した結果、収益性が大幅に改善しました。

詳細については、10ページの増減要因分析をご覧ください。

## 2022年3月期 上期セグメント別売上高 (前年比)

(単位：億円)

	2021/3期 上期実績	2022/3期 上期実績	増減額	前年比
売上高	128.7	243.3	+ 114.6	+ 89.1%
半導体事業	87.4	191.9	+ 104.5	2.2倍
化成品事業	8.1	9.1	+ 1.0	+ 11.9%
新事業	26.2	31.1	+ 4.9	+ 18.6%
レーザ事業	7.0	11.2	+ 4.2	+ 60.0%

こちらは、セグメント別の売上高です。

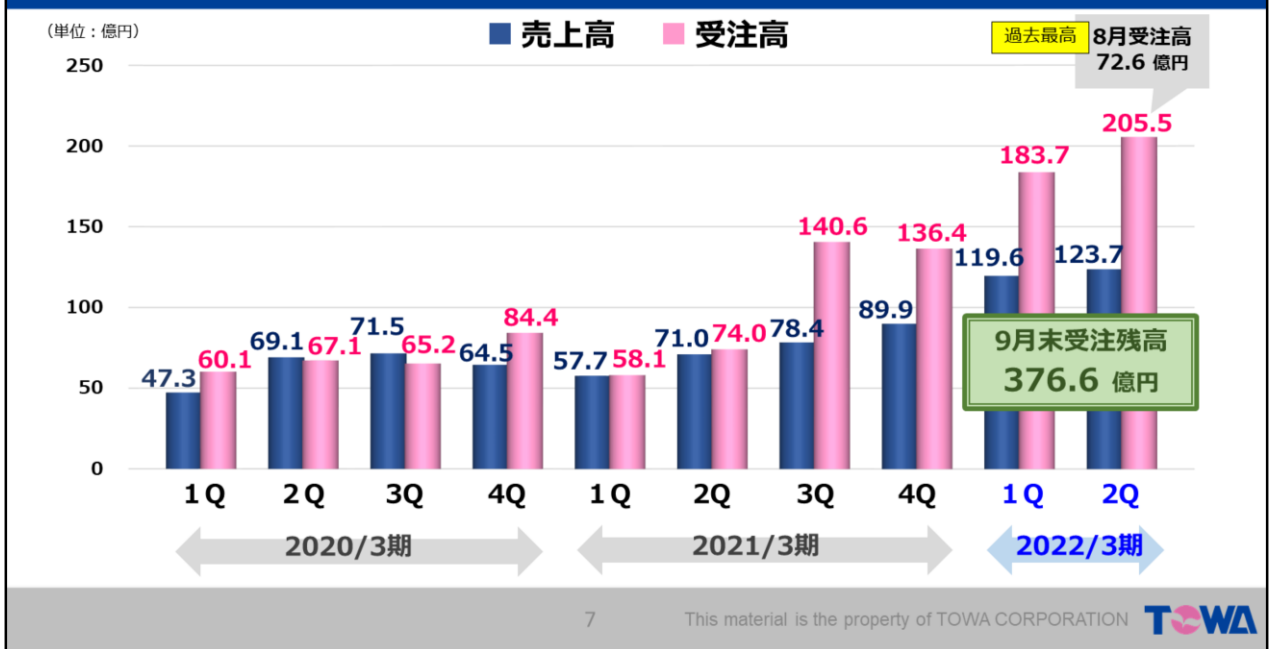
半導体事業の売上が前年比で2.2倍となりました。主に世界的な半導体不足解消や中国半導体内製化に向けた半導体製造装置の需要が増加したためです。

化成品事業は前年比で11.9%増と堅調に増加いたしました。

新事業については、前年比18.6%増となりました。主に、TSS（トータル・ソリューション・サービス）売上が前年比で増加したためです。

レーザ事業については、幅広い用途で電子部品の需要が旺盛であったことから、前年比で60.0%増となりました。

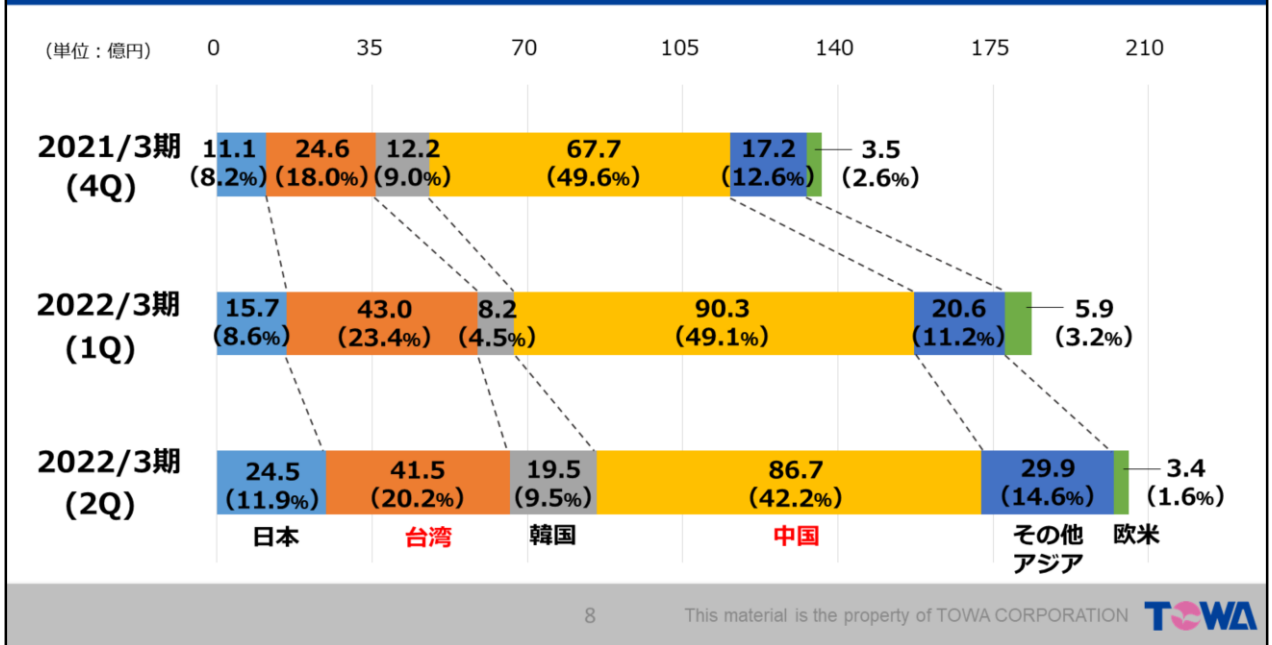
# 受注・売上高の推移



こちらは四半期ごとの受注・売上高の推移です。

世界的な半導体不足解消に向けた設備投資や中国での半導体内製化に向けた活発な投資により、1Q・2Qともに高水準で推移いたしました。8月度の受注高は70億円を超えるなど、2Qの受注高は過去最高であった1Qを上回りました。

## 地域別受注構成比率推移（仕向地ベース）



こちらは地域別の受注高です。金額は仕向地ベースとなっております。例えば、韓国メーカーでも納入された地域が中国であれば、中国の受注高になっています。

台湾は5G関連製品や、米中対立により自国での供給体制強化に向けた需要増により、今期1Qより高水準の受注が続いております。

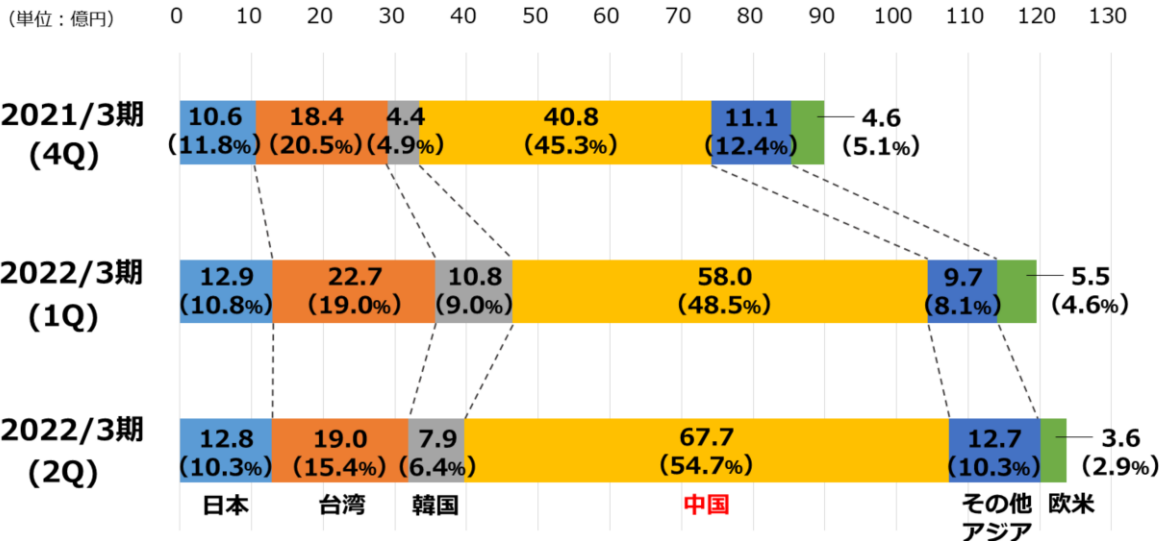
中国は半導体内製化の加速により前期4Qから引き続き、高水準の受注が続いております。

日本・その他アジアは車載向け半導体の需要増が牽引いたしました。

なお、詳細なデータを決算補足資料として当社Webサイトに掲載しておりますので、あわせてご参照ください。



## 地域別売上構成比率推移（仕向地ベース）



こちらは地域別の売上高です。金額は受注同様、仕向地ベースとなっております。

受注と同様に、中国は引き続き高水準で推移しております。

その他の地域も堅調に推移しております。

こちら、詳細なデータを決算補足資料として当社Webサイトに掲載しておりますので、あわせてご参照ください。

## 2022年3月期上期 連結営業利益 増減要因分析 (対前期上期)

(単位：百万円)

売上 12,869

売上 24,332

売上総利益への影響額 +5,021

1,087

3,885

1,136

△433

5,675

売上高の増加による  
影響額

工場稼働率の改善など  
による影響額

販売管理費の増加  
による影響額

'21/3期上期

※百万円未満切り捨て

営業利益(4,587百万円増)

'22/3期上期

こちらは、前期上期と今期上期の営業利益の増減要因分析です。

参考としてご覧ください。

## 主な説明内容

1. 2022年3月期 上期実績
2. **2022年3月期 通期予想**
3. TOPICS

## 2022年3月期 通期 連結業績予想（修正）

（単位：億円）

	2022/3期 上期実績	2022/3期 下期修正予想 (11/8公表)	2022/3期 通期修正予想 (11/8公表)	2021/3期 通期実績	前年比
売上高	243.3	256.7	500.0	297.0	+203.0 (+68.3%)
営業利益	56.7 (23.3%)	58.3 (22.7%)	115.0 (23.0%)	36.1 (12.2%)	+78.9 (3.2倍)
経常利益	57.0	58.0	115.0	38.1	+76.9 (3.0倍)
当期純利益	41.4	40.6	82.0	26.6	+55.4 (3.1倍)

※当期純利益＝親会社株主に帰属する当期純利益

ここからは、通期の業績予想についてです。

当社は11月8日に2022年3月期の業績予想を修正いたしました。

半導体製造装置市場は、生産能力の増強や、中国半導体内製化に向けた積極的な投資が続いており、当面はこのような状況が続くと予想されます。そのため、売上高を上方修正いたしました。

また、工場稼働率の改善にともなうコスト削減効果などにより、上期の利益が想定を上回ったことに加え、下期は売上高の増加による利益増が見込まれることから、各段階利益につきましても、上方修正いたしました。


売上高、各段階利益ともに過去最高となる見込みで、TOWA10年ビジョン

（2014年4月－2024年3月）の最終年度の目標である、売上高500億円、営業利益80億円（営業利益率16%）を2年前倒しで達成できる見込みとなりました。

## 2022年3月期 セグメント別売上高計画（修正）

(単位：億円)

	2022/3期 上期実績	2022/3期 下期修正予想 (11/8公表)	2022/3期 通期修正予想 (11/8公表)	2021/3期 通期実績	前年比
売上高	243.3	256.7	500.0	297.0	+203.0 (+68.3%)
半導体事業	191.9	203.7	395.6	211.1	+184.5 (+87.4%)
化成品事業	9.1	9.0	18.1	18.1	±0 (-)
新事業	31.1	33.0	64.1	54.2	+9.9 (+18.3%)
レーザ事業	11.2	11.0	22.2	13.6	+8.6 (+63.2%)

13      This material is the property of TOWA CORPORATION      

こちらは、セグメント別の業績予想となります。

半導体事業については下期も積極的な投資が続く見込みで、前期実績を大幅に上回る見込みです。

化成品事業については前期と同等を見込んでおります。

新事業については、部品販売や改造、中古機などが堅調に推移し、前期実績を上回る見込みです。

レーザ事業については、幅広い用途で電子部品の需要が旺盛で前期実績を上回る見込みです。

## 設備投資等の状況と配当計画

### 設備投資の状況

2021/3期 実績	2022/3期 上期実績	2022/3期 通期計画
34.5億円	17.8億円	58.1億円

### 減価償却費の状況

2021/3期 実績	2022/3期 上期実績	2022/3期 通期計画
16.0億円	8.9億円	18.7億円

### 研究開発費の状況

2021/3期 実績	2022/3期 上期実績	2022/3期 通期計画
7.4億円	2.1億円	8.4億円

### 配当計画

2021/3期 実績	期初計画	修正予想 (11/8公表)
16.0円	23.0円	23.0円

※配当方針「安定・継続配当」に基づき、23.0円で変更なし。  
なお、中間配当は見送りとさせていただきます。

こちらは、今期の設備投資、減価償却費、研究開発費の状況、及び配当計画になります。

配当については、2021年5月に発表しました計画から変更はありません。

## 主な説明内容

1. 2022年3月期 上期実績
2. 2022年3月期 通期予想
3. TOPICS

# 拡大する中国地域における取り組み

## 中国における事業活動強化に向け、開発拠点を設立!!

### 中国地域新規顧客数

直近3年間で  
95社増加



直近3年顧客数増加地域TOP3  
1.江蘇省 2.広東省 3.浙江省

### 海外初の開発拠点（新会社）を設立

中国における事業活動をさらに強化するため、ラボ機能を備えた開発拠点を中国蘇州に設立いたしました。

#### ● 会社概要

- ・ 社名： 東和半導体設備研究開発（蘇州）有限公司
- ・ 従業員数： 約50名
- ・ 設立日： 2021年9月26日



オンラインでの調印式の様子

ここからは、今期の当社の取り組みや最近のトピックスについてです。

当社は過去から中国地域において、現地の子会社のみで生産・設計から販売、そしてアフターサービスを完結できる体制を整えるなど、積極的な展開を行ってまいりました。

その結果、現在の半導体国産化を推し進める中国地域のお客様のニーズを確実に捉え、2022年3月期上期の受注・売上が大幅に増加いたしました。

また、TOWAの実績を高く評価していただき、直近3年間で90社以上の中国地域での新規顧客を獲得することができています。

そして、中国地域における半導体製造装置事業をより強化するために9月26日に中国蘇州において、ラボ機能を備えた開発拠点を設立いたしました。お客様に近い場所に開発拠点を設置し、開発段階からサポートすることでお客様とより強固な関係構築を目指してまいります。



## 各拠点の生産状況

### 東南アジアコロナ禍や中国電力不足の影響を最小限に抑え、通常通り生産活動を継続中

- マレーシア工場では、新型コロナウイルス感染拡大によるロックダウンを受けたが、生産部門の出社を優先し、軽微な影響に留めた。
- 中国蘇州工場では、中国での電力不足により、電力制限を受けたが、自家発電設備や他拠点での代替生産により、軽微な影響に留めた。
- MIPプロジェクトによる、必要部品の先行手配などで部材調達リスクを低減。

#### MIPプロジェクト

(Minimal Inventory & Period)

- ▶ リードタイム短縮
- ▶ 在庫適正化（生産方式見直し）
- ▶ 先行生産 ⇄ 受注後生産の切替



マレーシア工場稼働の様子



中国蘇州工場稼働の様子

こちらは、各拠点の生産状況についてです。

マレーシア工場におきましては、東南アジアの感染拡大によるロックダウン（都市封鎖）を受け、制限の対象となりましたが、生産部門の出社を優先するなど、生産活動への影響を軽微に留め、現在は通常通り稼働中です。

中国蘇州工場におきましても、中国での電力不足による影響で数日間の電力制限を受けましたが、自家発電設備の利用や他拠点での代替生産を行うことで、生産活動への影響を最小限に抑えることができ、こちらも現在は通常通り稼働中です。

また、MIPプロジェクトの推進により、リードタイムの短縮と在庫の適正化が進んでおります。

先行生産と受注後生産の切替により生産効率化と能力拡大を両立し、必要部品は先行手配するなど部材調達リスクを低減しています。世界的な部材不足により、厳しい状況は続いておりますが、現時点におきましては、大幅な納期遅延などは発生しておりません。

# 半導体製造装置事業

## コンプレッション

- 積層化やモジュール化が進む半導体メモリや5G関連デバイスなど最先端パッケージ向けに堅調に推移。

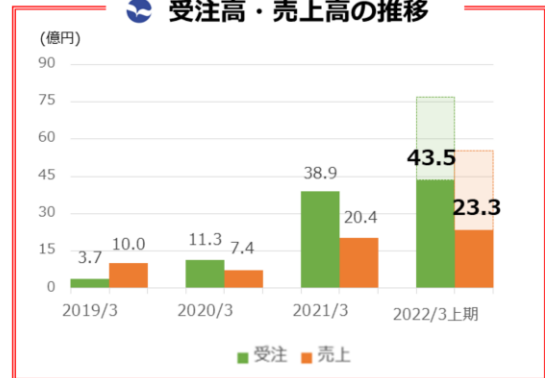
受注高・売上高の推移



## シングュレーション

- 手厚いアフターサービス体制やモールドイング装置の実績を高く評価いただき、新規顧客を獲得。

受注高・売上高の推移



こちらは主な半導体製造装置についてです。

まず、TOWA独自のコンプレッション装置については積層化やモジュール化が進む半導体メモリや5G関連デバイスなど最先端パッケージ向けに順調に受注・売上を伸ばしております。今後も半導体機能の高度化によりコンプレッション技術の優位性がますます高まり、用途も拡大する見込みであります。

続いて、シングュレーション装置についてです。5G通信機器や家電用などの汎用品向け、さらには基板カット向けにシングュレーション装置の受注・売上が拡大を続けております。

当社の手厚いアフターサービス体制やモールドイング装置の納入実績を高く評価いただき、新規顧客を獲得しております。

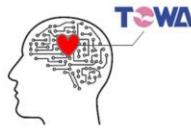
# 3次元パッケージとTOWA

様々な分野で使用される3次元パッケージにTOWAの技術が活用

5G



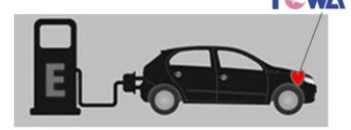
AI



サーバー



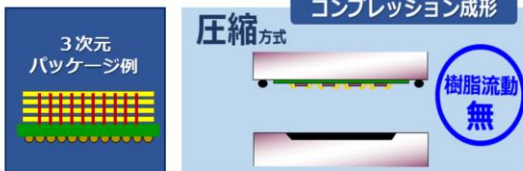
EV



↑  
トランスファ方式と比較し品質・環境・コスト面で優位!!

## TOWAの独自のコンプレッション技術

- 樹脂が流れないためチップやワイヤへのダメージ無し(薄型、積層、モジュール化されたパッケージに最適)
- 樹脂使用効率100%(廃棄ゼロ)
- 大判化されたパッケージにも対応可能(コストダウン)



こちらは、3次元パッケージとTOWAの関係についてです。

身近なものから、今後拡大が見込まれる製品など、様々な分野で使用される3次元パッケージに、TOWAの技術が活用されています。

TOWA独自のコンプレッション技術は、樹脂流動が無く、薄型化、積層化、モジュール化されたパッケージのモールドイングに最適な技術です。また、樹脂使用効率が100%で環境に優しく、大判化も可能なことからコスト低減にも寄与するなど、トランスファ方式と比較し多くの優位性があります。

## ESGの取組み (Environment)



### 脱炭素に向けた取組みを推進

- 中国蘇州工場、マレーシア工場のそれぞれで太陽光パネルの設置を決定。蘇州工場で年間約**1,020トン**、マレーシア工場で年間約**1,330トン**のCO2排出量を削減予定で、どちらの拠点も年間排出量を約**30%削減**できる見込み。
- 国内主要拠点で使用する全ての電力を再生可能エネルギーへ切り替え完了。年間約**4,000トン**（年間排出量の約**96%**）を削減できる見込み。
- その他の生産拠点においてもCO2削減に向けた取組みを検討中です。



中国蘇州工場



マレーシア工場



増築中の京都東事業所

こちらは、脱炭素に向けた取り組みです。

装置の生産拠点であります中国蘇州工場、マレーシア工場ではそれぞれ太陽光パネルの設置を決定いたしました。

蘇州工場では年間約1,020トン、マレーシア工場では年間約1,330トンのCO2排出削減を見込んでおり、どちらの拠点もCO2排出量を約30%削減できる見込みです。

国内では、2021年7月から国内主要拠点（半導体製造装置事業）で使用する全ての電力を100%再生可能エネルギーに切り替え、年間約4,000トン（年間排出量の96%）のCO2排出量削減を見込んでおります。

その他の生産拠点においてもCO2削減に向けた取組みを検討中です。

# ESGの取組み (Social)

## 環境負荷の少ない製品開発

当社は、1979年に樹脂の使用効率を高めるマルチプランジャー方式を開発し、樹脂の廃棄量を大幅に削減したほか、樹脂効率100%（廃棄量ゼロ）により、トランスファー装置に比べ

CO2排出量約70%削減を達成する独自のコンプレッション方式を開発するなど、創業時から環境への負荷が少ない製品開発を行っております。

また、現在は消費電力を抑えた製品の開発に向けても取り組んでいます。

デジタル化、デジタルトランスフォーメーション（DX）を支えるデータセンター、情報通信インフラの整備に伴う半導体への拡販を通じ、地球環境と世界の技術革新に貢献します。



PMC2030



## 人材育成・働き方改革

当社は、「社員=財産」と捉え、社員1人ひとりの健康と働きがいを第一に考え、重要な経営課題として捉えています。



主な取り組み

- ・通信教育やEラーニングの充実
- ・各種表彰制度
- ・産休・育休後の職場復帰支援
- ・クラブ活動や家族参加型行事
- ・時間単位休暇制度（2021年4月より）
- ・在宅勤務制度

<ご参考> 【TOWAとSDGs】

<https://www.towajapan.co.jp/jp/company/sdgs/>

当社は中長期的な企業の発展には、売上や利益の目標達成だけでなく、企業価値の向上が不可欠であると認識しており、当社に関わるすべての人々の健康と安心、そして地球環境への配慮を怠ることなく、技術革新を世に送り出し、ものづくり企業として社会と企業がともに成長できる高い付加価値を生み出していくことを目指します。

当社は、マルチプランジャー方式や樹脂効率100%（廃棄量ゼロ）により、トランスファー方式に比べCO2排出量約70%削減を達成する独自のコンプレッション方式を開発するなど、創業時から環境への負荷が少ない製品開発を行っております。また、現在は消費電力を抑えた製品の開発に向けても取り組んでいます。

当社は「社員=財産」と捉え、社員1人ひとりの健康と働きがいを第一に考え、重要な経営課題として捉え、本スライドに記載のような教育や自己啓発の充実、働き方改革に取り組んでいます。

その他の当社の主な取り組みなどにつきましては、スライド下部に記載のリンク先をご参照ください。

# ESGの取組み（Governance）

## 新市場区分「プライム市場」申請

当社は、2021年7月9日付で株式会社東京証券取引所より、新市場区分における上場維持基準への適合状況に関する一次判定結果を受領し、「プライム市場」の上場維持基準に適合していることを確認し、10月28日の取締役会において「プライム市場」を選択することを決定いたしました。



## コーポレート・ガバナンスの強化

「プライム市場」選択に伴い、今後もより一層のコーポレート・ガバナンスの強化に努めます。

### 主な検討項目

スキルマトリックス作成

インセンティブ報酬導入

TCFDなど、気候変動に係る  
リスク・収益機会等の開示

英文開示の充実

当社は、2021年7月9日付で新市場区分「プライム市場」に適合していることを確認し、10月28日開催の取締役会において、新市場区分として「プライム市場」を選択・申請を行うこと決議いたしました。なお、11月2日に東京証券取引所へ申請書類を提出いたしました。

当社は中長期的な企業の発展には、売上や利益の目標達成だけでなく、企業価値の向上が不可欠であると認識しており、コーポレート・ガバナンスの強化についても積極的に取り組んでいます。

「プライム市場」選択に伴い、今後もより一層のコーポレートガバナンス・ガバナンス強化に努めます。

取締役のスキルマトリック作成、インセンティブ報酬の導入、TCFDなど気候変動に係るリスク・収益機会等の開示、英文開示の充実等について検討を進めてまいります。

# 世界のモールドプロセスをTOWAに!!



TOWA 10年ビジョン

ものづくり企業の真価に挑む

《本資料に関するお問合せ》TOWA株式会社 企画部

〒601-8105 京都市南区上鳥羽上調子町5番地 Tel : 075-692-0251

本資料には当社グループの計画や方針、財務、技術、製品、サービス、業績等に係る将来予想に関する記述が含まれております。将来予想に関する記述は、あくまで当社グループが現時点において入手可能なデータや仮定、方法等に基づき、当社グループが判断したものであり、様々なリスクや不確定な要因を含んでおります。また、新たなリスクや不確定要因は随時生じるものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。したがって、本資料に含まれる将来に関する記述は、実際の結果とは大きく異なる可能性があることをあらかじめご了承願います。